

まなづる 海の月報

トピック まなづるの海

岩漁港 20年ぶりの浚渫工事

しゅんせつ



岩漁港で作業中の浚渫船。海底の砂や石をすくっている様子。(2021年2月3日撮影)

岩漁港では、昨年12月から今年の3月8日までの予定で浚渫(しゅんせつ)工事が行われており、港に大きな浚渫船が入って連日作業をしています。浚渫は、河川や海の底の砂をすくい取る工事のことです。港では、波や海流により徐々に砂が溜まり浅くなってしまうので、たまに浚渫を行なって、船の安全な航行や停泊に必要な水深を確保する必要があります。今回、岩漁港では20年ぶりの工事となりました。

港をいつも安全に使用できるようにするためには、定期的な整備が必要です。漁港に対しては、漁港機能保全計画が策定されており、漁港としての設備機能の点検や整備が行われています。今回の工事でも、この計画に基づき、岩漁港を使用する船で一番大きい、喫水(きっすい)(船底から水面までの高さ)2.5mの定置網漁船「第八岩丸(19t)」が安全に港に入出りできる深さを確保する予定になっています。工事前の調査では港内の一番浅いところの水深は0.9mしかなかったようで、岩漁協の漁師さんのお話によると、干潮時には船底が海底に擦れてしまいそうになるほどだったそうです。岩漁港の海底からは1868m³に上る砂が運び出され、横須賀の走水まで船で運ばれ、漁場改良工事に使用されるそうです。

これまで水深が浅かった岩漁港内には、日光が海底に届きやすいため、光合成をする褐虫藻を共生させるサンゴイソギンチャクが多く生息していました。工事後の港の新しい環境では、また別の生物が見られるようになるかもしれず、注目したいところです。

とくダネ! イチオシニュース

定置網にかかった深海魚

真鶴町漁協の定置網にホテイエソが入りました。ホテイエソは水深120から800m付近に生息する深海魚で、口の下に一本あるヒゲの先の発光器で小魚等を誘って捕えます。冬は、表層の海水の水温が下がり、深場との水温差が小さくなるため、夏に比べて海水が混ざりやすくなります。そこに陸から沖へ向かって風が吹くと、さらに深場から海水が上昇しやすくなるため、深海魚が浅場に現れる可能性が高くなります。



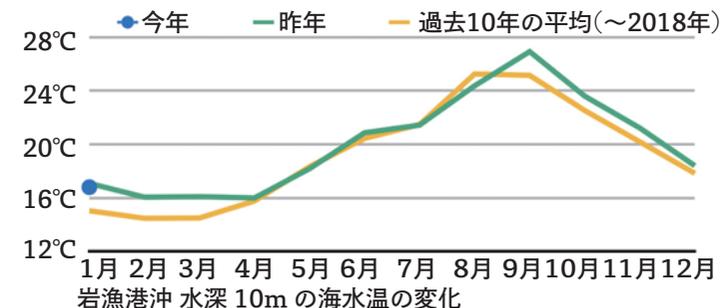
定置網にかかったホテイエソ(2021年1月15日撮影、真鶴町漁協提供)

真鶴の海況

この冬も昨年並みの暖かい海

岩漁港沖水深10mの2021年1月の海水温は、16.8℃となりました。2018年までの過去10年平均水温を1.6℃上回り、1月の海水温としては、調査開始以来の最高となった昨年(17.1℃)に次

いで2番目に高くなりました。黒潮によって南の暖かい海からやってきた季節来遊魚は、本来この時期には姿が見えなくなりますが、今シーズンは種類や量は減少したものの、ミツボシクロズメダイや福浦のチンアナゴなどが見られています。<情報提供: 横浜国立大学臨海環境センター>



まなづるの漁獲情報

不漁の冬、相模湾全体で漁獲量減少



スルメイカ(体長30cm程度)

冬是一年のうちでもっとも水揚げが少ない時期ですが、今シーズンは特に少ないようです。例年は、少ないながらもブリをはじめ、ホウボウやヤリイカの水揚げがありますが、この1月は真鶴魚市場の水揚げ量が全体で数百kgほどしかないことも珍しくはなく、魚市場も閑散とした日が続いています。

この不漁は真鶴だけに限ったことではなく、相模湾の他の漁場でも水揚げが少ない状況が続いていて、相模湾全体で魚が少ないようです。これから春になると盛漁期を迎えますので、漁獲量が戻ってくることを期待したいと思います。

今回ご紹介するスルメイカは、私たちが馴染み深い魚介類のひとつです。北海道から沖縄まで分布していて、個体群によって夏、秋、冬にそれぞれ産卵することがわかっています。真鶴でも年間を通して水揚げがあり、手に入りやすい食材となっています。また、スルメイカは、刺身よし、煮てもよし、焼いてもよしと、どの調理方法でも美味しく食べることができることも、食卓で人気の理由です。今回は、肝も一緒に焼いて美味しくいただきました。<情報提供: 真鶴町漁協>

町立遠藤貝類博物館 2月中旬～3月のイベントスケジュール

- 2月14日(日) まなづる自然こどもクラブ(真鶴・湯河原町内小・中学生対象)「冬の海辺を観察しよう!」
→緊急事態宣言による博物館閉館に伴い、中止。
- 2月26日(金) 町立遠藤貝類博物館 海中写真展 開始(～6月30日まで)
- 2月27日(土) 写真展オープニングイベント
「学芸員による展示解説」/「海の生物観察コーナー」
- 2月28日(日) 海のミュージアム
「琴ヶ浜ビーチコーミング～漂着物をあつめよう～」
琴ヶ浜・琴ヶ浜研修センター【要申込・有料】

※町立遠藤貝類博物館の閉館およびイベントの開催は、緊急事態宣言の発出状況により、変更されることがあります。詳しくはHPにてご確認ください。

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HP からダウンロードができます。プリントしていただいたの掲示・配布歓迎です。